

主催：経済人コー円卓会議日本委員会

スイスを舞台に、グローバルリーダーを育成する

CAUXプログラム PSR (Personal Social Responsibility)

自己の信念を持つリーダーになるために
世界に本気でぶつかり
オンリーワンの自分を追求する

CAUX  ROUND TABLE

世界に目を向け、高い問題意識を持ち、“組織に息を吹き込むリーダー”たれ

ヨーロッパの経済危機が世界中に影響を与え、アメリカの農産物の不作が日本の食糧問題に影を落とし、世界のどこかで起こった出来事が、翌日には株価に反映される今日。

今、私たちは、世界を無視してはビジネスのみならず、生活までもが成り立たない世界で生きています。

このような全方位的な状況の中、企業が生き抜くために、私たちは今まで蓄積した知識を智慧にまで昇華させ、広い視野を持って自立・自律的に、確固たる軸を持って確実に行動に移すことが求められています。また、これらを実行できる人を、私たちは「人間力」のある人材と考えています。「人間力」という言葉から人はさまざまなことをイメージしますが、私たちは「自己の魂を自ら磨き、大きく育てることで、多様な価値観を受け入れ、そして、相手を魅了できる力」と定義しています。

本プログラムでは、多様な文化や価値観が交差する環境を提供し、真の「人間力」を発揮できるリーダーの育成のお手伝いをします。



CAUXプログラムの目的:

ぶれない判断軸を持った、グローバル環境での国際競争力に立ち向かえる人材を育成する。

そのために、

- 今、世界で何が起きているのかを知り、世界の全体像を理解することによって視座を高める
- そこから自分自身の世界観を意識し、自らの立ち位置を確立する



CAUXプログラム5つの特徴

— 自らの無知を知り、自己を知り、他者を知り、そして世界を知る

- さまざまな教材のもと、徹底した対話を通して、個人の知識を智慧へと昇華していきます
- 戦後、日本が国際社会へ復帰するきっかけとなった場所(スイス・コー)で、徹底的に自分のあり方を考えます
- 経験豊かなメンターが、グローバル社会への第一歩を踏み出すサポートをします
- 世界40ヶ国あまりから集まった集団に身をおくことで、世界から自分を見つめ直す経験を重ねられます
- 静かな環境の中、「心の眼」が鍛えられ、「誰が正しいかではなく、何が正しいか」という判断力が養われます



誰と対話をするのか

- 世界と — グローバルで戦ってきた企業のトップ、NGO関係者、文化人等々と、自ら交流する
- 一緒に集う、志を同じくする参加者同士と — グローバルビジネスの中で、ともに活躍を誓いあう仲間をつくる
- メンターやファシリテーターと — クリストファー・スプレング (Christoph Spreng)、石田 寛
- そして、自分自身 — 自己の内面(価値観、思い、希望、ビジョン)を見つめ、自己のあり方を問い続ける



ゴール (CAUXプログラムを修了して得られること)

- 時代を先読みし、自ら課題を設定して、解決に導くための、視点と決意を得る
- 自分の判断基準となる、心の拠り所(プリンシプル)を得る
- 相手を巻き込んで動かすための、自分なりの「切り札」を得る





プログラムの全体像



※ コー滞在中は、個人の学びをより豊かにするため、経験豊かなメンターによる個別の指導やサポートを行います



CAUXプログラム実施会場：



Cauxマウンテンハウス

スイス西部、レマン湖のほとりにあるジャズフェスティバルでも有名なモントルーから登山電車で1時間ほど登った、山の中腹にある小さな村です。そこに建つ「コー・マウンテンハウス」は、民族・宗教・国籍等のあらゆる違いを超え、世界約80カ国で和解と融和をもたらすための活動を行っているNGO団体Initiatives of Change(IC)の国際会議場として、これまでにさまざまな紛争解決のきっかけを作ってきました。第二次大戦後いがみ合っていた独仏間の和解、戦後の日本の国際社会への復帰のきっかけとなった場所として、日本では知られていません。1985年に日米欧の通商問題解決のための初めての会議がコーで開催されました。この会議は、貿易摩擦問題の最前線となるであろうと考えたフィリップス氏は、その静かで平和的な雰囲気の中で開催が相応しいと考え、ICに協力依頼をし、実現したのです。

その後、この会議体は「経済人コー円卓会議(Caux Round Table)」と名付けられ、組織化するとともに、今日に至るICとCRTとの関係が築かれていくこととなります。

- NGO Initiative of Change International主催で開催される国際会議に参加します。
- コー国際会議は、一人ひとりが自分の中に変化を起こし、それが人間関係に反映されることによって、社会に変革を起こすという考え方に立っています。その変革を支援するために、一か月の会議期間中、一週間単位で異なるテーマについてディスカッションやダイアログが行われます。
- コー国際会議では、世界中、40～50カ国、350人ほどの様々なバックグラウンドを持った人たちが一堂に集まり、学びあい刺激し合う場となっています。そこでのディスカッションやワークショップを通じて、参加者は経済や政治とは別の視点から国際理解を深め、自己を深く探求し、自分自身の変革から世界への変革へと意識をシフトし、よりよい社会に貢献する方法を学んでいきます。
- 本プログラムでは1カ月行われる会議の内、6日間参加します。

プログラム概要

開催:	2017年7月4日(火)～7月9日(日)(全6日間)
会場:	スイス コー(Caux)
対象:	企業・組織における将来のリーダー候補者 30～60代のグローバルビジネスに関わる人、グローバルビジネスを牽引する人 文化的バックグラウンドの異なる人と仕事をする人、チームを率いる人 視野を拡大し、高い視座で自身の考えをまとめたり、主張できるようになりたい人
定員:	最大15名
講師:	石田寛、 クリストファー・スプレング (Christoph Spreng)
言語:	日本語及び英語
参加費	110万円/1名(別途消費税をご請求します) ※上記参加費には下記が含まれます テキスト、宿泊及び食事 ※移動・渡航に要する費用は含まれません
お問い合わせ/ お申込み	経済人コー円卓会議日本委員会 PSR事務局 担当: 佐藤 <small>※プログラムの内容は予告なく変更することがあります</small>

■ファシリテーター

全体ガイド役。思考・議論の促進者・火付け役。

石田 寛 (いしだ ひろし)

経済人コー円卓会議日本委員会(Caux Round Table Japan)
専務理事兼事務局長



1966年生まれ。1990年、日本興業銀行入行。2000年、同行を退職し、2001年より経済人コー円卓会議日本委員会に参画し、2006年より現職。

2005年より、関西学院大学専門職大学院、青山学院大学大学院、国際基督教大学、九州大学ビジネススクール等で教鞭を取り、2014年3月まで関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科経営戦略専攻教授。現在九州大学経済学府客員教授。他にSBI大学院大学講師としても活躍。専門はCSR、倫理、リベラルアーツ、人間学。

日本能率協会・リベラルアーツプログラムの主任講師として、公開教育プログラム・個別企業カスタマイズプログラムのファシリテーター・講師を数多く務める。

【経済人コー円卓会議】(GRT:Caux Round Table)

経済人コー円卓会議(GRT)は、ビジネスリーダーによるネットワークで、ビジネスを通じて社会をより自由かつ公正で透明なものとするを目的としています。中でも企業の社会的責任(CSR)については、1994年に策定した「GRT・企業の行動指針」を基にした企業のCSR活動状況の診断プログラムである「CSRイノベーション」を開発するなど、CSRの浸透・普及を目指すべく調査や研究、提言といった活動を行っています。

<http://www.crt-japan.jp/>